

# 産官学の協定を活かした学力向上プロジェクトの推進

羽島市教育委員会 学校教育課 教育支援センター

## 1 はじめに

本プロジェクトは、学習者個人の継続的なデータ蓄積から指導の手掛かりを得ることが重要となるのではないかとの視点から、岐阜大学教育学部の有する研究力、羽島市内学校の有する実践力、株式会社文溪堂の有する開発力を統合、連携協力し、羽島市の子どもたちの学力向上を目的に平成29年8月24日に連携協定を結び、活動を開始している。

本プロジェクトにおける学習データの分析では、主な対象を漢字と計算とし、株式会社文溪堂の教育ソフト「チャレンジ漢プリっこ・計プリっこ」を継続的に活用して学習できるようなカリキュラムとするとともに、この学習データを分析可能なようにアプリケーションを改修して分析利用することとした。分析にはBIツールを活用して探索的な分析環境を検討して取り組んでいる。

さらに、学習指導要領の改訂により新たに小学校においてプログラミング教育が位置付けられた。教師等の指導に対する不安も大きいため、プログラミング体験教室を本プロジェクトの一環として試行し、産官学のそれぞれが参観を通して学び合えるようにしている。

## 産官学による学力向上協創プロジェクト エビデンスに基づく羽島市の子供たちの学力向上をめざして



## 2 基礎的な学力に関する実態調査

プロジェクトの取り組みに際して、モデル校の児童生徒の基礎的な学力の実態（漢字、計算）を調査した。学力調査の問題については、株式会社文溪堂が所有する漢字、計算に関する確認問題を使用し、特に漢字については全国調査の結果との比較検討を可能とするために、同様の問題を使用した。また、併せて漢字や計算に関する意識調査も実施した。

## 3 チャレンジ漢プリっこ・計プリっこを活用した基礎的な学力の育成

本プロジェクトで活用した「チャレンジ漢プリっこ・計プリっこ」は、児童生徒一人一人に応じたプリントを、児童が自ら作成し、プリント学習を意欲的に進めることができるアプリケーションで、漢字は間違えた問題が次のプリントに再出題され、計算は間違えた問題と同じ型分けの問題が次のプリントに再出題され、繰り返し練習を意欲的に積み上げることができる。さらに個人カルテで自分の到達状況を自分で把握し、見通しをもって学習を進めることができ、漢字・計算の基礎・基本の定着を図ることができるものである。

小学校モデル校である桑原学園前期課程では、登校後から朝活動の時間帯に自ら取り組めるように進めた。登校した児童からアプリケーションを起動させ、ログインし、自分の問題を出力して取り組む。採点は、学級担任などの教員が行うようにし、教師が児童の取り組み状況を把握したり、認め励ますようにしたりした。中学校モデル校の羽島中学校では、希望者に夏季休業日や放課後に実施した。生徒の取り組んだプリントの採点は、教職員だけではなく大学生や地域ボランティアが行い、つまずきに応じた学習支援を行った。



桑原学園の取り組みの様子



羽島中学校の取り組みの様子

#### 4 プログラミング体験教室、プログラミング教育研修会の開催

児童がプログラミングの基礎的魅力について体験を通して学ぶこと、教師は次期学習指導要領（H29.3）におけるプログラミングの学習事例を学ぶこと、大学はプログラミング教育の基礎的指導法の習得を図ること、株式会社文溪堂は最新の教育現場の情報を得て、プログラミング教材に対する研究開発活動の参考とすることを目的に、岐阜大学の学生や羽島市教育委員会の指導主事を講師に「プログラミング体験教室」や「プログラミング教育研修会」を平成30年12月までに合計5回開催した。

#### 5 終わりに

学習意欲の視点から、漢字力や計算力の向上にとどまらず、その学習を通して学習意欲の向上がどのように促進されるのかを解明することが重要だと考える。詰め込み教育から、知識を構成し創造する学び、意欲的に進めることができる学びへの転換するための指導の知見を得られるように2年目のプロジェクトで取り組む必要がある。また、プログラミング教育については、学生にとっても教師にとっても体験する児童にとってもプラスになる実践を今後も継続して積み重ねていく必要がある。



児童対象プログラミング体験教室



教員対象プログラミング教育研修会